

【皆さんへのお願い】

1. 新型コロナ感染症

全国で緊急事態が解除されましたが、感染リスクは0ではありません。この感染症の**正しい知識を得て、感染リスクを自ら判断し、これを避ける行動をとる**ようにお願いします。

◎この感染はまだわかっていないことが多いし、この感染症へのリスクの感じ方も人によって違います。ただ、**家族にあるいは本人に基礎疾患があり、「マスクしてよ!」「距離をとって」と心で思っても場の空気と言えない人が近くにいる**ことを絶対に想定してください。もしかかったらと強くリスクを感じている生徒が周りにいることを意識してください。

◎登校する前に必ず検温してください。熱があった場合は、学校に来ないでください。欠席扱いにはなりません。もしかしたら・・・を考えて行動してください。

◎この感染症で学んでほしいのは、この感染リスク1つとっても人の「思い」は見えません。けれども「思いやり」は見えます。飛沫感染を防ぐ意味からも1mぐらいの距離をとってください。マスクを着用することが望ましいといわれています。親しい中にも相手を大事にする思いやりを常に持ってほしい。

2. 総体、インターハイ、全国野球大会、コンクール等、代替の大会はあるものの例年行われていた行事がこの感染症で中止になり、やり場のない思いを特に3年生はしたと思います。後ろばかり向いても仕方ないです。**切り替えて前を向いてほしい**と願っています。

3. 4・5月の出来事から

4月15日のことですが、朝、新入生が正門前の横断歩道を渡ろうとしていた時、1台の車が止まりました。渡り終えた生徒はその止まってくれた車の方にお礼のお辞儀をしたようです。おそらく心から感謝したと思います。その姿にその車を運転されていた方から**「普通のことに感謝できる彼女の姿に感動しとても胸が熱くなり心洗われる朝となりました」**と感謝の手紙を頂きました。

「心」は見えないですが「心遣い」は見えます。地域で勉学に励んでいることは、地域に生きていることにほかなりません。だからこそ、地域の皆さんはあなたたちを応援してくれます。話は変わりますが、近所の方から自転車の急な飛び出しを指導してくださいとお願いされたことがあります。どんなに急いでも事故が起こると取り返しのつかない事態にもなりかねません。狭い路地を行く時こそは、いつでも止まれる速度で行くようにお願いします。地域にも「心遣い」と「思いやり」を・・・。

5月28日朝のことです。新栄小学校の一年生が登校途中転んでけがをしました。近くを通っていた本校の1年生がすぐに、その子の手当てをして、励ましたそうです。すぐに校長先生からお礼の電話がありました。とても感謝しておられました。

4. 文武両道

○挨拶、礼儀、言葉遣い、粘り強さ、自分の気持ちをコントロールするなど部活動を通して学んでいると思います。特に、次の2つは実績がある北高生だからこそできると信じています。

◎返事・・・誰であろうと「はい」「いいえ」と自分の意見がはっきりといえる。

◎部活以外でも身の回りの整理整頓・掃除ができる。

各顧問の先生も話をされていることかもしれませんが広島県のサッカーの指導者の畑 喜美夫先生は、「サッカーはサッカーだけでうまくなるのではなく、サッカーは日常生活を含んだすべてによってうまくなる」と話されています。

あいさつが、時間厳守が、言葉遣いが、部活動の時だけ、ユニホームを着ている時だけでは、「何を学んでいるの？」ですね。

5. 北高生の求める生徒像

授業を大切に。自分の力を確認し、努力目標をきめて24時間を無駄にしないでくれ！

- ① 「雄心」…困難に直面した時に、怯まずに正面から乗り越える**たくましい生徒**。
- ② 「創造」…急激な社会の変化に対応すべくこれからの時代に向かって、これまでにとらわれない新しい発想で、新しく道を切り開いていく**創造性豊かな生徒**。
- ③ 「挑戦」…現状に満足せず、学校生活において高い目標を立て、失敗や挫折を恐れず、**挑戦し続ける生徒**。
- ④ 「自発的に取り組む生徒」

6. 目標を実現したある生徒の物語

第1章

高校時代の目標(全国大会に出場し1つでも上位を狙いたい)

毎日部活に励んだ。大会前は、社会体育にも部活後参加し技術を向上させた。残念だがインターハイは惜しくもいけなかった。あと1つが勝てなかった。練習では勝ってきた相手だった。九州大会どまりだった。自分の心の弱さを実感した。周りが引退する中、受験をひとまず置き九州大会に臨んだ。雨でいつもの力が出ない。九州大会は2回戦で負けた。なんか中途半端な気持ちしか残らなかった。全国で戦いたいと3年間いろいろなものを犠牲にしたつもりだった。全国の切符を取り損ねた試合を引きずっていた。振り切るために、わざわざ父に九州大会まで部活にはまらしてくれといった。振り切ったつもりが引きずっていた。無性に悲しかった。先輩たちから大学で待っていると声をかけてもらった。今度こそ、前を向くしかない。まず漫画、テレビを切り捨てた。恋愛も…。受験勉強にはまった。授業にもついていくのがやっと。まったく力がないことに気づいた。基礎基本ができていないことに気づいてしまった。時間がないことばかりが意識にあった。効率を求めるしかない。何をどう勉強していいのかわからず塾に通った。塾で講師に聞きまくったし、成績の良い友人に勉強方法を聞いて効率の良い勉強方法を探して効率ばかりを求めた。成績が伸びなかった。それでも休みの日には8時間以上勉強しまくった。国立大のAOにチャレンジした。試験前日まで猛勉強した。不合格。1日落ち込み翌日からセンター試験に向けてまた勉強した。効率ばかり求めていて今更ながら遠回りしていることに気づいた。でも遅い。やりきるしかない。何とかセンター試験では佐賀大学B判定。でも感触は悪い。案の定、2次試験がうまくいかず不合格。そのとき改めて基礎基本の大事さを痛感した。基礎ができていないことに改めて気づかされた。

予備校に通った。部屋にこもってひたすら勉強した。平日4時間休日8時間超。でも成績は伸びなかった。自信を何度もなくした。しかし、大学でもう一度部活したい。インカレに行きたい。この一途で長期の作戦を立て直した。夏までに弱点をすべて克服。夏以降長所を伸ばす。気づけば高校時代に使っていた問題集がよれよれになった。基礎基本はできた。しかし試験問題が時間内に解けない。演習を重ねた。でも試験では時間の壁に阻まれた。でも11月ごろに成果が見え始めた。センターでは今までで一番良い点数が取れた。目標の大学もA判定。2次の記述もB判定で無事合格。(続く)